

自ら課題を見つけ解決しようとする子どもを育てる学級活動
～学級力アンケートをもとにしたPDCAサイクルを通して～

久留米市立荒木小学校 教諭 緒方 豪

I 主題設定の理由

1 現代社会の要請から

現代社会では、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境が大きく変化し続けている。また、大きな変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化も挙げられる。

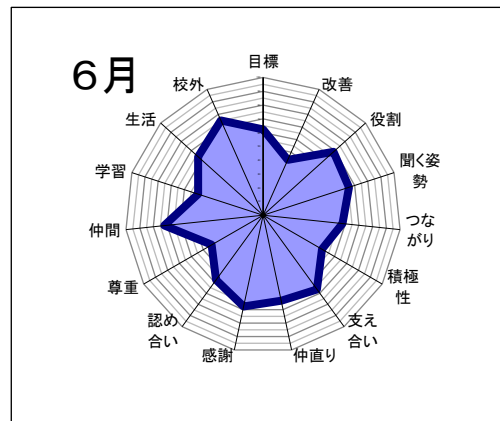
これからの社会を生き抜いていくために文部科学省は「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することが求められている」と述べている。

このようなことから、小学校段階で一人ひとりが、身近な社会である学級の中で課題を見つけ、それを他者と協働して解決していく力を身につけていく必要があると考えられる。

2 児童の実態から

学級の子どもたちは、素直に指示を聞き行動することは概ね出来ている。しかし、自分達でどのように行動したらよいか、どうしたらクラスがもっと良くなるかという事に対して関心が少ない。また、学習中に自分の意見を発表しようとする子どもたちが少ない。教師が指名をすると答えることができるが積極的に手を挙げる事がなかなか出来ない。

6月に第一回目の学級力アンケートを実施した結果、改善（自分たちの学習や生活をよくするために話し合い活動をしていますか。）という質問では、「とてもあてはまる」が0名だった。また、目標（みんなで決めた目標やめあてに力を合わせて取り組んでいますか。）という質問では、「とてもあてはまる」が8名だった。このことにより本学級の子どもたちは、自分たちの学習や生活をよりよくするという点で自ら行動しないという課題があることが分かる。そこで、自分達の課題を的確に把握し、主体的に学級作りに参画する意欲を高めようとする本研究は大変意義深いと考える。



【資料1 学級力アンケート結果（6月）】

II 主題の意味

1 主題について

（1）「自ら課題を見つけ」とは

本学級の児童が、学級全体の課題について理解するということである。

学級の実態を子どもたちが把握しよさや課題について考えて、話し合い活動を行う。一人ひとりが考えを持つことにより、自分の学級についての理解が深まっていくと考える。

（2）「自ら課題を見つけ解決しようとする子ども」とは

学級のよさや課題を把握し、それを伸ばしたり改善したりするためにはどのようにしていけばいいか主体的に考え、行動する子どもである。

上記の子どもを育成するために次の3点の子どもを目指す。

- ① 自分たちの学習や生活をよりよいものにしようとする意欲的に活動する子ども。

- ② 自分達の学級の様子を的確に把握することができる子ども。
- ③ 把握した課題について話し合い、解決に向けて取り組む子ども。

以上の3点を育成することにより、さらに学級をよりよいものにするためにはどうしたらよいかという意欲を高めることに繋がり、的確に課題を把握し、それを解決へと導くことができると考える。その結果、児童一人ひとりが、集団の一員としてよりよい集団づくりに参画しようとする姿に近づけることができると考える。

2 副主題について

(1)「学級力アンケート」とは

学級力アンケートは、学級の状況を診断するためのデータをとる、子ども向けのアンケートである。

学級力とは「学び合う仲間としての学級をよりよくするために、子どもたちが常に支え合って目標にチャレンジし、友達との豊かな対話を創造して、規律を守り安心できる環境のもとで協調的な関係をつくり出そうとする力」である。このような定義を受けて、「目標をやりとげる力」「話しをつなげる力」「友だちを支える力」「安心を生み出す力」「きまりを守る力」の5つの領域でアンケートを実施し、リーダーチャートに表し、可視化して子どもたちが課題を明確にできるようにする。

(2)「PDCA サイクルを通して」とは

PDCA サイクルとは Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Act (改善) この4段階を順次行って1周したら、最後の Act を次の PDCA サイクルにつなげ、螺旋を描くように1周ごとに各段階のレベルを向上 (スパイラルアップ) させて、継続的に改善するものである。

学級力アンケートの結果から話し合い活動を行い、計画を立て、取り組み、再びアンケートの結果から改善のための話し合い活動を行っていく。繰り返し行っていくことで、自分達で改善方法を話し合う力が伸び、主体的な集団づくりに繋がる。(資料2)



【資料2 PDCA サイクル詳細】

III 研究の目標

自ら課題を見つけ解決しようとする子どもを育てるために、アンケートによる実態把握と PDCA サイクルによる手立ての有効性を究明する。

IV 研究の仮説

アンケートによる「学級の実態把握」と話し合い活動による「課題の解決に向けた取り組み」の工夫を繰り返していくことにより、自分たちのよさや課題に積極的に向き合い、解決しようとするよりよい集団を築くことができる子どもを育成することができるであろう。

V 研究の具体的構想

1 アンケートによる実態把握

学級力アンケートをもとにして自分と学級のふり返しを行う。それにより、子どもたち一人ひとりが学級のよさや課題について理解を深める。

2 話し合い活動による Plan・Check の工夫

学級力アンケートの結果をもとにして話し合い活動を行う。話し合い活動をもとにして「課題解決に向けての取り組み」をクラスで決定する。その後、実際に取り組みを行う。繰り返し、学級力アンケートを実施し、「話し合い活動をもとにした取り組みが有効であったか」「新たな課題の解決に向けての取り組み」についての話し合い活動を行うことで、よりよい集団作りに向けて、Plan【計画】と Check【評価】を子どもたち一人ひとりが考えることができる。

3 PDCA サイクルによる工夫

PDCA サイクルを繰り返していくことにより子どもたちが学級づくりに積極的に参画し、よりよい学級作りに対しての意欲を高めていくことにつなげていく。また、PDCA サイクル図を教室に掲示することにより子ども達が今どの段階の活動を行っているのかを把握しやすくする。

Plan の工夫 学級力アンケート結果をもとに課題について話し合い、学級会の議題を考え、課題解決に向けた取り組みを合意形成できるようにする。

＜課題解決に向けた取り組みを決定する活動＞

Do の工夫 話し合いの結果を教室に掲示し、意識して取り組むことができるようにする。

＜協働して実践する活動＞

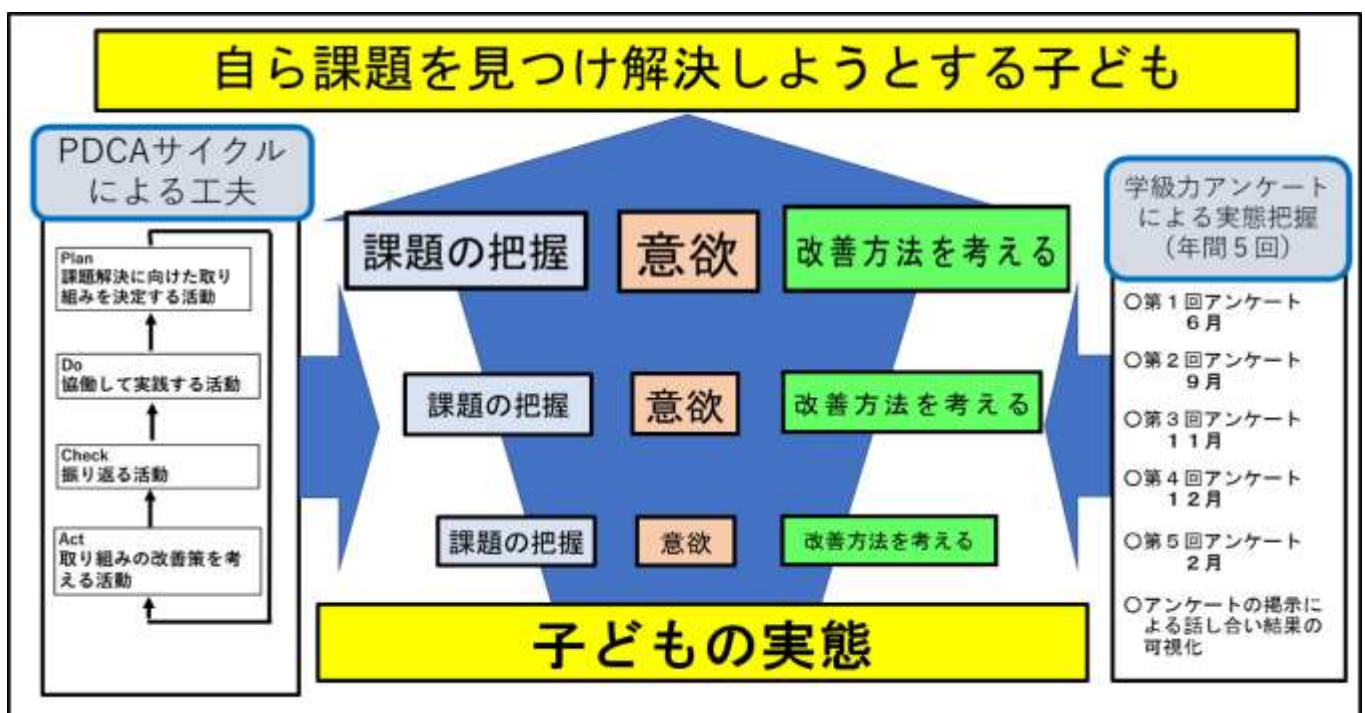
Check の工夫 学級力アンケートの結果や振り返りカードからよさを成果として実感したり、新たな課題を考えたりすることができるようにする。

＜振り返る活動＞

Act の工夫 新たな課題について話し合い、課題解決に向けて改善策を考えることができるようにする。

＜取り組みの改善策を考える活動＞

VI 研究構想



Ⅶ 研究の実際

1年間を通して、**Plan**、**Do**、**Check**、**Act**を繰り返す流れで学級会を行ってきた。6月に第1回学級会を行い、話し合いの結果から夏休みまでに取り組んだ。9月に第2回学級会を行い、前回よりも課題を見つける能力、課題解決にむけての話し合いがスムーズに行えるようになってきていた。そして、11月に第3回学級会を行った。

〔実践例〕 第5学年 特別活動1－(ウ) 議題「5年1組をよりよいクラスにしよう」

1 本議題について

本議題の指導では、5年1組の課題の解決のために自分たちにはどんなことができるか考えさせ、自己決定、実行を通して、学級経営への主体的な参加をねらいとしている。学級の課題を把握し、それを伸ばしたり改善したりしていくための話し合いを行う。話し合いから出た取り組みを行うことで学級の課題が改善したり、よさが伸びたりしていることにより、さらに学級をよりよいものにするためにはどうしたらよいかという意欲を高めることに繋がると考える。その結果、児童一人ひとりが、集団の一員としてよりよい集団づくりに参画しようとする姿に近づけることができると考える。

2 議題の目標

○5年1組をよりよいクラスにするために、議題についての考えを持ち、学級会で合意形成していくことが分かり、自分の考えに提案理由やめあてに沿った理由を付けて発表したり、友だちのよさを見つけたりしながら、話し合うことができるようにする。 【知識・技能】

○課題解決のためにはどのようなことに取り組めばよいか考え、クラスでの取り組み内容を適切に決め、自主的に実践したり、振り返りをしたりすることができる。 【思考力・判断力・表現】

○5年1組をよりよいクラスにするための話し合いに関心を持ち、進んで取り組みや工夫について話し合い、学級みんなで課題解決のために向かっているという態度を育てる。

【学びに向かう力・人間性】

3 計画（2時間＋課外）

○ 学級力アンケートをもとによさや課題について考える。……………課外

1 議題「5年1組の課題」について話し合う。……………①（1／2）

○ 話し合いで決まった課題についての解決方法を各自考える。……………課外

2 議題「課題解決のための取り組み」について話し合う……………①（2／2）

○ 取り組みを行った後の振り返り……………課外

4 指導の実際と考察

(1) **Plan** 課題解決に向けた取り組みを決定する活動・・・課外＋1

〈課外〉

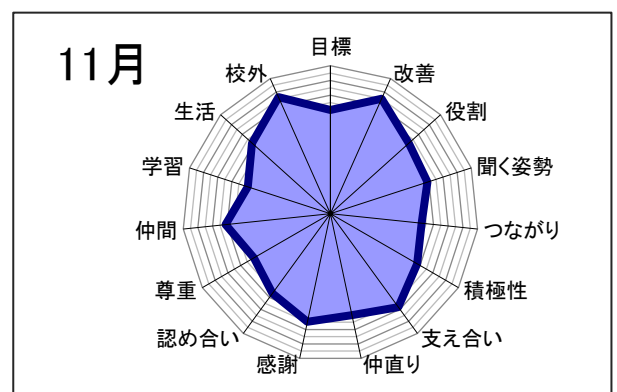
クラス全員に対して行った学級力アンケートの結果から5年1組のよさや課題について個人で考える。それをもとにして学級会で改善すべき課題について考える。

(資料3)

〈第1時〉

① 前回の取り組みの振り返りを行う。

C1：みんなが楽しめるお楽しみ会で、障害物リレーができてクラスみんなが前より仲良くなれた。前回の話し合いでは、仲間の数値が低かったことか



【資料3 学級力アンケート結果（11月）】

らお楽しみ集会を開きクラスの仲を深め合う取り組みを行った。その成果があったのかを振り返りを子ども達が行った。

② 個人で考えたよさや課題について出し合う。

C 1 : 学級会で積極的に意見を言う人が増えてきたところがいいと思うよ。

C 2 : 友達のいいところをあまり伝えられていない点が課題じゃないかな。

③ 出された課題の中からクラスで今改善していかなければならない課題について話し合い決定する。

C 1 : お楽しみ会で仲は深まったけど、仲間の項目が伸びていないから（仲間）に課題があると思う。

C 2 : 友達のいいところを見つけ合えば自信がついて積極的に発表する人も増えていくんじゃないかな。

などの意見もあり、学級会では（仲間）（尊重）（認め合い）が課題としてあがった。（資料4）



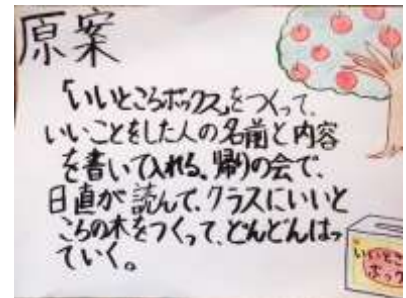
【資料4 話し合い結果（11月）】

〈課外〉

学級会で決まった課題についての解決策を個人で考え出し合う。それをもとに司会グループで話し合いを行い、「いいところみつけ」を工夫して行うことにより課題が改善されるのではないかという原案が作成された。（資料5）

〈第2時〉

〈議題〉 5年1組の課題解決のためにどのような工夫をして「いいところみつけ」をしたらみんなが頑張れるか話し合おう。



【資料5 学級会原案】

【提案理由】

今回の学級力アンケートの結果「仲間」や「尊重」や「認め合い」に課題があることが分かった。今の5年1組では、自信がなくて積極的に自分の考えを伝えることができない人が多い。そこでお互いのいいところを見つけあう活動を工夫することで一人一人のつながりが深まり、自信が持てるようになって考えた。そうすることで学級目標の「共に伸びる」というところにつながり、みんなが積極的に5年1組をよりよいクラスにしようという気持ちが高まると思い提案しました。

学級会を行った結果、①木に貼るカードを工夫する、②みんなが入れたくなるようなボックスを作る、③300個たまったらお楽しみ集会をする、④毎週金曜日は隣の席の人のいいところを書くようにするとみんなのいいところをみつけられる。という4つの工夫が原案に付加修正された。さらに、カードを作る人、ボックスを作る人、木を作る人、集計する人、帰りの会で読みあげる人と仕事を分担し、クラス全員に役割があるように考えることができた。

(2) **Do** 協働して実践する活動

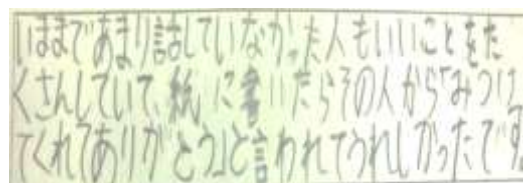
それぞれの役割分担にしたがって作業を行った。実際に取り組むと意欲的にいいところをみつけあうことができていた。2週間取り組みを行うようにしていたが、目標とする300個には1週間で到達した。その他にも、自主的に集計結果を折れ線グラフにまとめたり、積極的に友達のいいところをみつけたりする姿が見られた。今まで取り組んできた活動のなかでは子ども達が意欲的に取り組むことができた（資料6・7）



【資料6 いいところみつけカード】 【資料7 いいところみつけの木】

(3) Check 振り返る活動

学級力アンケートの結果から「いいところみつけ」の取り組みの振り返りを行った。30名中28名がいいところを意識してみつけるようになり効果があったと答えている。中にはたくさんみつける人と少ししかみつけられない人の差が大きかったのでどちらともいえないという意見も2名いた。取り組みを行ったことを振り返ることで多くの子ども達がやってよかったと感じることができた。(資料8)



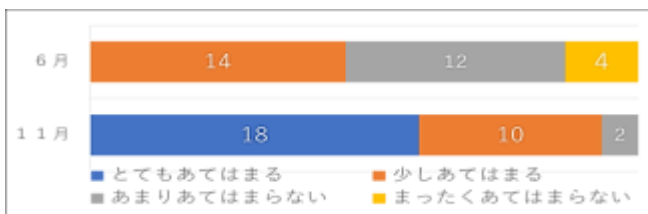
【資料8 振り返りカードの記述】

(4) Act 取り組みの改善策を考える活動

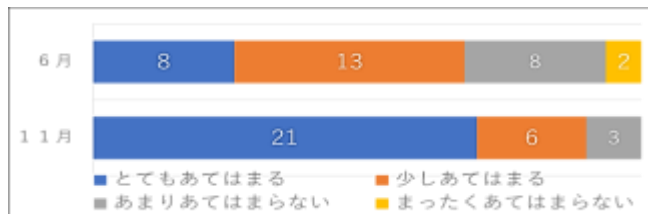
多くの子ども達が課題解決に向けていいところみつけは効果的であったと実感している。いいところみつけをしたことで、友達のいいところを見つけようという関わり方が増えたという意見が多かった。その一方で、カードを作る人が大変だったという改善点が出た。子ども達は、これからも継続して行っていきたいと考えているためどのように工夫をしたら改善されるのかを新たに話し合いを行った。話し合いの結果、カードを作る係の人を増やすという改善をし、取り組みを継続していくとなった。子ども達は、さらに意欲的に取り組みをおこなえるようになってきた。

Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果



【改善の項目のアンケート結果】



【目標の項目のアンケート結果】

6月に行った学級力アンケートと11月に行った学級力アンケートの2つの項目を比較してみた。

○改善（自分たちの学習や生活をよくするために話し合い活動をしていますか。）という質問では、「とてもあてはまる」が0名から18名に増加し、「まったくあてはまらない」は0名に減少している。結果から、子ども達は積極的に話し合い活動に参加し、改善しようとする姿に近づいていることが分かる。

○目標（みんなで決めた目標やめあてに力を合わせて取り組んでいますか。）という質問では、「とてもあてはまる」が8名から21名に増加し、「まったくあてはまらない」は0名に減少している。この結果、子ども達が意欲的に学級会で話し合い、決まったことに取り組むことができていることが分かる。

○PDCAサイクルの流れが定着することで、よりスムーズに話し合いを進めることができるようになっていき、子ども達も意欲的に参加することができるようになってきた。また、自分たちで話し合いを行って決めた取り組みにも意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。

2 研究の課題

- アンケートの実施から取り組みを決めるまでに課外の時間を多く使うことになった。またPDCAサイクルの流れが定着するまでは、学級会の準備などに多く時間がかかった。
- 学級会で取り組みを行った項目は子ども達が意識をして行動できていたが、それ以外の項目では伸びが少なかった。

Ⅸ 参考文献・引用文献

- 『学習指導要領解説 特別活動編（平成29年度告示）解説』 文部科学省
- 『学級力向上プロジェクト』2013年4月 株式会社金子書房 田中博之
- 『学級力向上プロジェクト3』2013年4月 株式会社金子書房 田中博之